



WORKERS Co., Ltd
2026 Spring Summer

Modified 6 Button BD

Supima OX, Yellow

Supima OX
Blue Mykonos

Supima OX, White

Supima OX
Blue Pale

25FW・昨年の6ボタンBD。フロントが身頃5個+台襟1個のボタン配置。オリジナルに似せて袖が太い、カフスのボタン位置が高い、着丈も長い、タックイン前提。オリジナルに忠実な、タテに長い・袖の太いシルエットでした。それに対し、「ボディはWORKERS定番のModified Fit。フロントボタンだけ6ボタンBDのバランスに出来ないか?」とご要望があり作ってみました。

着丈/15サイズで76-7センチほど。裾を出しても入れても着られる丈。袖は太すぎず、かといって袖まくりが出来ないほど細くもない。カフスボタン位置、ごくベーシックにカフスの真ん中。

右ページ、6ボタンの特徴。台襟から身頃第一ボタンまでの距離が7ボタンより広い。結果、ネクタイを絞めず、カジュアルに着るとTシャツの首元が良く見える。この「本当はあまり見えないほうが良いTシャツが見えちゃう」が、なんともラフで良いのです。本来、BDはアメリカントラッド。アメリカのオフィスや学校で着られたボタンダウンシャツが、古着で日本に着てカジュアルに転用されていった。ボタンダウンシャツはカジュアルと、ドレスの合間の特殊な存在であることがわかります。素材はすべてオックスフォード、5オンス程度。真夏以外、春・秋は1枚で。冬はインナーに。

Cotton 100%

- Supima OX, White
- Supima OX, Blue Pale
- Supima OX, Blue Mykonos
- Supima OX, Yellow
- Supima OX, Stripe, Pink
- Compact OX, Matilda Check, Beige

¥17,000 (本体価格)

¥18,700 (税込)

デリバリー予定 1月



身頃・第一ボタンまでの間隔があるので、Tシャツの首元が良く見える。これが6ボタンの特徴。中は細いバインダーが特徴の2PLY T Slim。私の好きな組み合わせ。

Officer Trousers



定番、と言いつつ毎シーズン微妙にシルエット、ラインナップ、仕様の変わる Officer Trousers。いわゆる「チノパン」。Slim/ 裾幅 18 センチは一度お休みしようか?と思いつつ、やはり根強い支持がある。オフィスカジュアル的に使いやすいシルエット。でも、いつもと同じ仕様ではつまらないで、すべて細玉+後ろ中心ダブルステッチ巻き縫いに。Regular/ 裾幅 20 センチは、逆にいつもの Slim でやる仕様。後ろフラップポケット / 後ろ中心割り縫いに。内股 / 脇はどちらもダブルステッチの Type 2 バージョン。

チノは WORKERS 別注の USMC Khaki が一色。もう一色、同じチノでも春らしく白っぽい、でも真っ白ではない、Pearl White。どちらも 10 オンスほど。インディゴヘリンボン、タテが 7 番のインディゴ染。ヨコが 20 番の生成り。タテの色糸が太くはっきり見えるので、「インディゴヘリンボン」にしては、柄がはっきり見えない。着こんで洗いこむと、徐々に柄がわかつてくる、「育つヘリンボン」。これも 10 オンスほどですが、チノよりしなやか。実はヘリンボン、4 種類のサンプル生地を作った中の一つ。今後も違うバージョンが登場するか? WKS Covert、これも別注。「撫り杢 (よりもく)」という、濃いブラック系と、薄っすらグレー系に染めた糸をより合わせてタテ糸を作ったもの。糸を 2 色染め、さらにより合わせてから織る。工程数が多い分生地値が高い!!!でも、私の大好きな「杢」。一見、ウールのようにも見える、でも綿。糸に撫りがかかるからか、手触りは固め。

Cotton 100%
• USMC Khaki
• Pearl White Chino
¥ 17,000 (本体価格)
• Indigo Herringbone
¥ 20,000 (本体価格)
• WKS Covert
¥ 25,000 (本体価格)

デリバリー予定 1 月



Slim Fit

Regular Fit

シルエット比較。以前、Slim はまた上も浅くしていましたが、数年前に修正して今は Slim/Regular、腰回りは「ほぼ」同じ。違いはダーツの入り方。最終的にウェストでダーツを取る分量はほぼ同じですが、Slim は半身 2 本分散 /Regular は半身 1 本を斜めに長く取る。ヒップの丸み具合が微妙に違います。Slim、パターンの膝からふくらはぎを以前より少しだけ出す。「くるぶし～裾終わり」はスリムですが、ふくらはぎから上はゆとりを付けて窮屈にならないよう微調整。ただ、脇・内股はダブルステッチの巻き縫い。これが、自由な線は縫えず、ベジェ曲線で言う「破綻の無いカーブ」でないとダメ。こういう事情で、何回も何回もパターンの微調整続けているのです。

2 PLY T, Long Sleeve



何でもないロンT。これを去年の春、既製品で探しました。セントジェームスみたいに厚くない。ヘインズ赤ラベルほど薄くない。袖口や裾にリブが無い。綿100。首は付け襟ではなくバインダー。Amazonも近所のイオンも、散々探しましたが中々見つからない。だったら作ってしまえと、2PLY T Shirt の生地で作りました。

5.7オンスほど。厚すぎず・薄すぎずでインナーにも、一枚でも、ちょうどよい厚み。

2本の糸を1本に撚り合わせて「双糸（そうし）」にしてからTシャツ生地に編む。

理由は「糸の撚り方向」と「2本を撚り合わせる方向」を互い違い=逆にすることで、生地がねじれないようになります。ジーンズを好きな方ならおなじみ「生地のねじれ」あれは、編地（Tシャツやセーター）でも発生します。それを抑えるのが「双糸」。1本の糸「単糸（たんし）」で編むと糸のよっている方向にねじれが出来ます。そのねじれが雰囲気になってよい場合もあるので、Football T や Running Cat T は単糸で編んだ生地。このロンTは、もう少し綺麗な雰囲気で着たかったので、ねじれの出にくい双糸で編んだ生地を使いました。

色、Numa Blue と Fuji Green は、浜松&根津の名店、Citron さんのお二人に選んでいただきました。私が選ぶと、Navy、OD、Coyote みたいなどす黒い色ばかり選んでしまうので。

2PLY Yarn Cotton 100%

- White
- Navy
- Numa Blue
- Fuji Green

¥9,000 (本体価格)

¥9,900 (税込)

デリバリー予定 1月

Lounge Jacket



2020年春夏、もうだいぶ前ですが春用に作ったLounge Jacketをいまだによく着ています。秋冬のラウンジとの違いが前の見返し（ホールが開いている部分）。秋冬は身頃にたたきつけないところ、春夏版は完全に身頃に縫い付けてしまう。とたんに「カバーオール」っぽくなるのですが、見返しががっちり止まっている分、気にせず洗濯機に突っ込めるしラフに着られる。2020春夏版は4ポケット&今と違い、袖がかなりひねりのあるパターンでした。デザインを3ポケットに、袖のひねりを弱くしたものを作りたい・・・と思っていて今季やっと形になりました。が、ブレザーも作ってしまい、テーラード二つやないか！と後で気づき・・・さすが、自分の趣味満開のへぼMDっぷり。

素材、ネイビーチノは10オンス。Officer Trousersで使っているUSMC Khakiのネイビーバージョン。Indigo Herringbone/WKS CovertはOfficer Trousersとセットアップ。もちろん、ばらしてスポーツコートとしても使えます。インディゴヘリンボンはタテがインディゴ、ヨコが生成り糸。タテが太く、ヨコが細い糸なので、全体としてはタテ/インディゴが強く見える。結果、柄があまりはっきり見えない。手触りはしなやかで、綿100でも軽いストレッチ性がある。WKS Covertはタテ糸に黒系/薄いグレー系に染めた糸を撚り、ヨコ糸は黒系に染め織りあげた生地。私が大好きな、綿なのにウールっぽく見える。ウール生地のあの落ち着いた色調は好きなのですが、やはりどうしても「アメカジ出身」。それを綿で再現する生地が好きなのです。ただ、作ると非常に高価なので既成生地は、ほぼ無いのが難点。

Cotton 100%

- 10 oz Navy Chino Cloth
¥30,000 (本体価格)
¥33,000 (税込)

- Indigo Herringbone
¥33,000 (本体価格)
¥36,300 (税込)

- WKS Covert
¥38,000 (本体価格)
¥41,800 (税込)

デリバリー予定 1月

Border T

c#A/ Navy x White



c#B/Trim Red x White x Navy



c#E/ Neon Blue x Navy



c#F/ Navy x Tabby



今年のボーダーは生地を少し薄くしました。去年が9オンスほどに対し、今年は6オンスほど。編んでいる糸は同じで、編針に去年までは「引きそろえ＝2本まとめて」入れていたものを、今年の生地は1本にしています。去年も、TCBさん別注はこちらの薄いバージョンの仕様で生地を作りました。

私は頭が固いので「ボーダー？アニエスだってセントジェームスだって、ガッチガチのヘビーオンスなんだから、ボーダーはヘビーオンス！！！」と分厚い生地を使っていました。が、夏でも涼しそうに半袖ボーダー着ているTCB 井上君見て「いいな～」と。そりやそうで、6オンスなら、いわゆるTシャツの厚み。1枚で真夏に着られます。

色を考えると「首をボディの色とは違う色で巻いてトリコロールもありだな」と思いつき。「よし市場調査だ！」と世界のUと、日本のMを見に行ってみると・・・そもそも、首をバインダー（リブで巻いた）ボーダーが無い、無い、無い。唯一見つけたのがMで子供服用。市場調査は不発だったので、自分の趣味全開で色選びをした結果こんなことになってしましました。色が多すぎる！またも発揮される三流MD。マーチャンダイジングより自分の気持ち優先。

ネームはWORKERSのトレードマーク、猫ワッペン&猫プリントネーム。今年も、岡山の父、岡田ネームさん謹製。厚みが薄くなった分、インナーとしても使いやすい。春先にはGジャンやカバーオール。私が好きなのは、ボタンダウンやバンドカラーの中にロンTを合わせて、シャツをジャケット的に使う着方。

Cotton 100%

• Long Sleeve

¥14,000 (本体価格)

¥15,400 (税込)

• Short Sleeve

¥12,000 (本体価格)

¥13,200 (税込)

デリバリー予定 2月

c#C/ Black x Beige



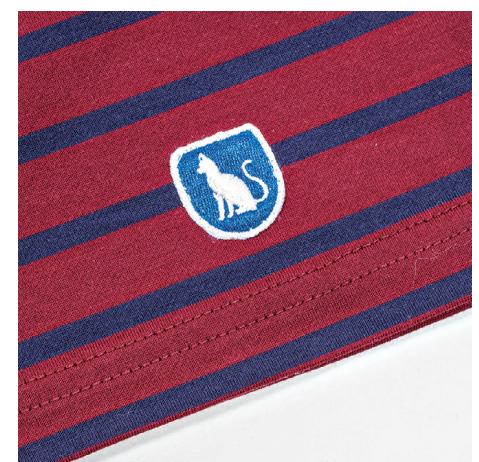
c#D/ Trim White x
Narrow Navy



c#G/ Trim White x
Red x Navy



c#A/ Navy x White
Short Sleeve



Swing Top



昨今の温暖化で「シャツをアウター」として使うことが増えました。「BDに使うオックスでブルゾン作れないか?」春の展示会時期、銀座7丁目の今やインバウンドで入れなくなった町中華・銀座亭の前を歩きながら考えたのが1年ほど前。さらに半年。たまたま流れてきた古着屋さんのインスタでストライプのスイングトップを見つけて「これだ!」とアイデアがまとまりました。

元ネタはちょっと古そうなブルックスのスイングトップ(ハリントンではなくあえてスイングトップと呼びます)。シアサッカーやオックス、本来ボタンダウンに使われる厚みの生地で作られていました。

素材は5オンスほどのオックス。オレンジストライプ、マチルダチェックはWORKERS別注で作ったもの。無地はタネイビーのがこの形には合うかな?とラインナップに入れてみました。そしてスイングトップと言えばパッチワークマドラス。夏ですね。ショートパンツにTシャツ、スイングトップ。足元はデッキシューズ。これで海に行くのを想像・妄想しつつ、私はそんな生活は出来ていません。2025年7月26日現在、これを書いています。服を作るのはイメージを膨らませるのが大事。ある意味、本当にそれをできちゃう、使える人はわざわざ作ろうなんて思わない。自分の願望や妄想を形にしてみました。

Cotton 100%
 • Combed OX, Solid Navy
 • Supima OX, Orange Stripe
 • Ecru Check Supima OX
 ¥23,000 (本体価格)
 ¥25,300 (税込)

• Patchwork Madras
 ¥24,000 (本体価格)
 ¥26,400 (税込)

デリバリー予定 2月

Lot 806XH,806 Black /T-Back

Lot 806 Black
13.7 oz, Black
Raw Denim



Lot 806 XH
14.7 oz, Indigo
Raw Denim



ファーストタイプ、今回はいわゆる「Tバック」仕様、1サイズ。大きいサイズのGジャンを、幅の狭いセルビッジ生地で作るため、背中に割りのある仕様。WORKERS ファン=重度の服好きには解説するまでも無い話。

インディゴはWORKERS 定番 / タテ 7番・ヨコ 7番をヨコ 6番に打ち換えた「XH(エクストラヘビー)」デニム。ブラックはタテヨコ 7番。EMOT (イースタン・メンフィス・オーリンズ・テキサス)、米綿 100%の中長綿を WORKERS オリジナルのムラ形状で作ってもらった糸「WKS-MEM7」。オリジナルデニムを作るとき、昔のLはどんなワタを使っていたのか知りたかった。そこで、日本の綿輸入商社さんに頼み込み、メンフィスの穀物メジャーや農地、ワタの選別場をめぐりました。一番参考になったのが穀物メジャーのベテラン社員さん。「昔、紡績はどんなワタを使っていたか?」答えはシンプルに「米綿の混綿」。昔は、海外から輸入するよりも安価に米国産のワタが手に入った。さらに「混綿」である理由は、品質の安定のため。繊維の長さ、ワタの色、綿花の殻の残り具合。これらを出来るだけ、「毎年同じもの」を手配しようと混綿にしたほうが安定する。特定の畑や種類を指定すると、万が一、干ばつ・洪水・害虫で収穫できなければお手上げ。だから「米国の EMOT の混綿」だったそうです。で、WORKERS も EMOT のワタを使い、かつ糸のムラ形状は古着をばらして真似た。それが、WKS-MEM7 なのです。

American EMOT Cotton

100%

- 14.7 oz, Indigo Raw Denim

- 13.7 oz, Black Raw Denim

¥36,000 (本体価格)

¥39,600 (税込)

デリバリー予定 2月

Lot 857, Sanforized



13 oz Ishikawadai Denim

サードタイプのGジャン。着たい！でも苦手だったのがウェストをぎゅっと絞った独特のシルエット。その苦手なシルエットを「ファースト」の絞りが無いタイプに変更して作ってみたのが25FW。我ながら着やすい。ただ、25FWは「未防縮・キバタ」の生地を使ったのでねじれが出る。それこそファーストのようにねじれたサードでした。今回はねじれ防止の入った生地を使い、「ファーストのようなウェスト絞りが無い」だけでなく、「ねじれてもいい」シルエットのサード。ボタンもブラウン系を新たに作りました。デニムは右ページ「石川台」という、70年物の紡績機で紡ぐ、自然なムラ形状の糸を使ったもの。WORKERS定番のWKS-MEM7は古着から取ったムラ形状をコンピュータ制御の紡績機で再現しているので、一口に「ムラ糸」でも作り方が違う。最終的な色落ちの違いは着こんだ後のお楽しみ。

ネイビー／オイスターは90年代のユーロ系が元ネタ。タブもホワイトタブ。ツイル、綾織り生地で作ろうとオリジナルを参考に探すと、どうも普通のチノ／ウェポンと違う。シルエットに全くねじれ・ヨレが無く、生地表面に上品なツヤがある。そこでDouble Twist、双糸の綾織り生地を見ると・・・似ている！双糸・・・どこかで聞き覚えが。p6をご覧ください。2PLY Tと同じく、糸を撚り合わせることで、生地のねじれ、糸のムラを抑えている。ただ、双糸は高い！本来20番の糸を最初から作るところ、わざわざ40番（細い）を作って撚り合わせる。一般的に細い糸は、繊維の長い「良いワタ=高いワタ」でないと作れない。そういう面もあり、双糸はお値段が高いのです。以上、値段の言い訳でした。

Cotton 100%
 • 13 oz Ishikawadai Denim
 • 10 oz, Double Twist Chino,
 • Dark Navy / Oyster

¥33,000（本体価格）
 ¥36,300（税込）

デリバリー予定 2月

ISHIKAWADAI Spinning Machine



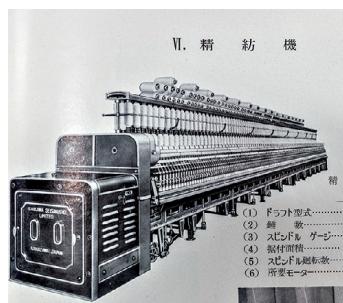
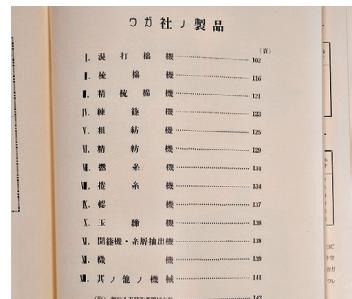
これから糸になるのを待つワタの山。久しぶりに伺いましたが、以前から綺麗なのがさらに整理整頓が進んでいます。



石川製作所 / 1953 と入った銘板。「石川台」の「だい」は、大正紡さんが機械につけるニックネーム。



精紡機全景。上に、様々な工程を経て、糸になる寸前の状態の粗糸。これが、所定の撚りを行い、糸になり下に巻き取られる。次工程でもっと太い「チーズ巻き」状態に巻き取る。



石川製作所、創業 35 年(1956 年)と 50 年の社史。35 年社史には、多種多様な「綿紡績」機器が紹介。一方、50 年史は「合成繊維」の機械がメイン。写真はおそらく今回見学した精紡機と思われる。

大正紡さん見学。以前も T シャツのトップ糸を作っていた時、セーターのスビマオーガニック糸の時と、何度か訪問しました。今回は、「石川台」と呼ばれる精紡機を詳しく見せていただきました。大正紡さんは織物(デニムやシャンブレーなど)を作る糸、編み物(T シャツやセーター)を作る糸、どちらも作られています。中でも有名なのは「ラフィ」という紡績の途中工程で落ちるワタを混ぜて作った、風合いのある糸です。

今回見学した紡績機は 1953 年(昭和 27 年)と銘板に記載。ただ、大正紡さんへの導入年は不明。銘板からすると、機械自体は約 70 年前の製造。作れる糸は、デニムに使う 7 番 / 太い糸から、もっと細い 30-40 番まで、セッティングを変えれば作れるのですが、機械式なので明らかに変更が大変そう。最近は「旧式」であるがゆえに出来てしまう「ムラ」を「欠点」ではなく「風合いのある糸が作れる」と発想を変え。デニムに使う、7 番の糸を多く作っているそうです。日本で、物作りをするとどうしても価格が高くなる。ならば、「効率」ではなく「ムラ」という独自性にかけた糸・紡績機です。

使い続けてきた理由は工場のスペース問題も一つ。「精紡」という、最終の糸を作ったあとに「チーズ巻き」という、運搬に適した大きな巻きを作る作業があります。この「精紡」と「チーズ巻き」の機械が「石川台」は別々にある。工場スペースを効率的に使える為、生き残ってきたとのこと。通常は「精紡」「チーズ巻き」が一体化しているので、そうなると置き場問題が出てくるわけです。

M43 Trousers Mod

OD Herringbone



Khaki Herringbone



10 oz Brown Back Denim



以前「俗に M43 と呼ばれている」サイドにカーゴポケットだけがついたミリタリーパンツを作りました。話変わって、インスタで私が勝手に「シャツの神様」と呼ぶ古着好きの方の投稿を見ると、その M43 についていないはずのフロントポケットがある。お久しぶりでメッセージを送り、詳しく各部を見せていただきました。テストサンプルか？来歴は不明。そのフロントポケット仕様を再現。ボタンや生地は、以前作った M43 に準じヘリンボン+タックボタン仕様。見せていただいた個体は生地・ボタンが全く違います。リプロではなく、「サイドカーゴの M43 にフロントポケットあつたら便利だな」を形にしました。後ろポケットが無い分パンツとして軽い。ヒップあたりがモサモサしない。「なんで自分で思いつかなかつた？」と悔しくなるバランスの良い仕様。

素材、OD/Khaki のヘリンボンは 9.2-9.5 オンスほど。洗うと若干詰まって 10 オンス程。似ていますが、糸の太さが微妙に違う。OD のほうは柄がはっきりと見えない。Khaki (若干ブラウンがかった見える方) がストライプ柄が比較的はっきり見える。デニムはヨコ糸をブラウンに染めた糸を使いこちらも 10 オンスほど。いわゆる「ミリタリーデニム」で全体がどす黒く見える個体をモチーフにした生地。「ヨコ糸に白度が低い糸を使わざるを得なかつた」「ヨコ糸を染糸使うことで、全体をどす黒く、汚れが目立たないようにした」など、所説がありますが眞実は不明。ただ、明らかにヨコ糸が白/生成りのデニムとは違う色。

Cotton 100%

- OD Herringbone
 - Khaki Herringbone
 - 10oz Brown Back Denim
- ¥18,000 (本体価格)
¥19,800 (税込)

デリバリー予定 2月

Moonglow Blazer

Wrinkle-Resist Chino, Navy



French Linen Herringbone, Black



Combat Wool Tropical, Navy



Combat Wool Tropical, Grey



春のブレザー、最終章。総裏、仕様は2つボタン1つ掛けのMoonglow Jacket仕様。

ここ数年、袖裏のみ、身頃は大見返しで裏地無しを作っていました。涼しくて良いのですが、私が展示会をやる3月初旬には寒い。かといって、冬の厚手サージやツイードを着る時期ではない。いつも着るものに困っていました。そこで、総裏・表地は春夏のトロピカルをメインにブレザーを作ってみました。

素材、コンバットウールトロピカル。コードュラナイロンをウールに混紡し「摩耗に強い・皺に成りにくい」で快適。どちらの色も、アメリカ・ウォーターベリー社のメタルボタン。Wrinkle-Resist Chinoはシワになりにくい、なっても自然とシワが消えやすい。「加工で綿100の物性を変えてしまった」チノ。具体的には、シリコンを生地に浸透させています。WORKERS定番・USMCチノはこの加工が無いので、比較していただくと風合いの違いがよくわかります。

逆に、「シワを楽しもう」がフレンチリネン。リネンはシワが出てなんぼですが、そのシワが汚く感じない。ジーンズのヒゲやハチノスが「良いな」と感じるのと同じ。リネンは水牛ボタン。

ブレザーと言えばメタルボタンですが、製作開始から約10年。メタルボタンの価格は当初の7倍。生地や工賃も値上がりし、そろそろ既製服としての価格に限界を感じます。という事で、最終章に総裏を作ってみました。

• Combat Wool, Navy/ Grey

¥55,000 (本体価格)

¥60,500 (税込)

• Wrinkle-Resist Chino, Navy

• French Linen Herringbone

¥45,000 (本体価格)

¥49,500 (税込)

デリバリー予定 2月

Band Collar Shirt



Ecru Shirt Cloth



Indigo Cotton Linen

Ecru Linen

アイデアの元は「軽い羽織りものとして着られるシャツ」「フォレスティエールのシャツバージョン」

フォレスティエールと言えば、スタンドカラー+飛び出したチンストラップ。ただ、ジャケットと同じ太さだとバランスが悪いのでバンドカラーの幅に修正。もう一つ、シャツは胸ポケ1個の所、少し大きくしたポケットを腰の左右に配置。これで、シャツからもう少しジャケット寄りに。逆にシャツらしさを残したのが、裾と袖口。裾を直角に、もっとジャケット風にすることも考えましたが、今回はぐるっと一筆に三巻縫いしたラウンド形状。ラウンド形状はクラシックな雰囲気が出る。袖口は通常の開き+カフス。袖まくりがしやすいので。地味にこだわったのが茶蝶貝のボタン。二つ穴、生地のナチュラルな雰囲気にボタンも合わせたい。真っ白でも、黒でもない、ということで茶蝶で作りました。

生地、コットンリネン。タテが綿、ヨコがトップ（ワタ状態で染めた）リネン糸。ネップがあり、ちらちらと染まり切っていない白い繊維があちこちに見える。この風合いがあまりにビンテージリネンそっくりで使ってしまいましたが・・・高い。高すぎるので生地屋さんも自社リスクでは作れずWORKERS別注。Ecru Linenは毎年定番で使っている、生成りの5.5オンスリネン。去年、値上げで一度使うのをやめましたが、独特のプルプル感、肌から離れて涼しい。洗っていくと育つ、チクチクしない。風合いに負けてまた使ってしました。Ecru Shirt ClothとBlack Chambrayはコットン100。リネンよりは多少買やすい値段。「どうしてもリネンは肌に合わない」方にはぜひこちらをどうぞ。

Cotton 65% / Linen 35%

- Indigo Cotton Linen
- ¥20,000 (本体価格)

Linen 100%

- Ecru Linen
- ¥20,000 (本体価格)

Cotton 100%

- Ecru Shirt Cloth
- Black Chambray
- ¥15,000 (本体価格)
- デリバリー予定 3月

Moonglow Trousers 21



Moonglow Jacket とセットアップになるトラウザーズ。Wrinkle Resist Chinoだけはセットにならず、ベージュのチノパン。シワになりにくい生地でチノパン+ネイビーチノジャケットを私がどうしても着たかったのでチノだけはセット崩し。今回、腰回りは昨年作ったIVY Trousersがベース。あくまで「腰回りのシルエット」のベースで、仕様は変更。フロントポケットを斜め切り替えに。フラップコインポケットあり。このポケットをパターンに入れ込むのが難しい! ただでさえ、ポケットが斜め切り替えで、フラップが入るスペースが無い。サンプルの32サイズはまだしも、30サイズが厳しい。単純にフラップを小さくすれば簡単ですが、そうするとコインポケットとして使えなくなる。今回、新しいグレーディング方法に気づいて解決しました。パターンデータを30-32/32-38と別々に作るのです。ひと手間かかるのですが、そこは私のマンパワーで何とかします。

背面もIVY Trousersが1本ダーツに対し、2本ダーツ。尾錠は無し。

裾幅20センチで、スリムでもビンテージでもない。いわゆる「レギュラー」な裾幅。

サンプルはモデルに合わせてダブル始末していますが、量産は裾、サンプルはモデルに合わせてダブル始末しましたが、量産の納品時はロックのみ。レンゲスは縫い代込で91センチ。ダブルの巾にもよりますが、80センチ上がり程度にダブル始末できる長さです。

- Combat Wool, Navy/ Grey
¥30,000 (本体価格)
¥33,000 (税込)

- Wrinkle-Resist Chino, Beige
¥22,000 (本体価格)
¥24,200 (税込)

- French Linen Herringbone
¥29,000 (本体価格)
¥31,900 (税込)

デリバリー予定 3月

Football T



Football T。

ビンテージを集めパターンを研究。肩部分に縫い目が無い。肩先で謎の出っ張りがある。特徴はつかめたのですが、実際に着て良いバランスにするのが難しく、サンプルを4回も作り直しました。やはり、WORKERS、まだまだカットソーの型紙の蓄積が足らないです。良い勉強になりました。

最初に悩んだのが、肩先の変な出っ張り。その分、袖の山がへこんでいる。これがFootball Tのデザインなので再現しないわけにはいかない。さらに、肩に縫い目が無い=傾斜が無いので生地が肩先で余る。これが脇の下に向かって垂れる。生地によってたれ具合が違うので、結局、表地を決めてから何回もサンプル作って微調整。「垂れ過ぎた！」「皺はできないけどタイトすぎる！」等々。さらに、首の位置も最初は後ろ過ぎて前があたる感じがする。そこで、切り替え位置ごと前にもってきて。「本番と同じ生地・同じ縫製工場」で何回も縫って・着て・修正して、また縫って・・・を繰り返すしか方法はなく。その甲斐あって「ビンテージの雰囲気、かつ、着た時にストレスを感じない着心地」のパターンになりました。素材は16番单糸の天竺。单糸、そう2PLYやボーダーが「双糸」に対し、糸1本で編む「单糸」。糸の撚り方向に生地自体が斜行（しゃこう）しています。もちろん、「セット」という工程である程度はまっすぐにしますが、それでも完全には斜行が取れない。その若干ねじれた感じがビンテージのあのTシャツの感じでもあります。

Cotton 100%, 7.0 oz

-White/Navy/Green/2-Tone

¥9,000 (本体価格)

¥9,900 (税込)

デリバリー予定 3月

BIG CHIEF / LOUISIANA



BIG CHIEF 72。こちらは1972年・ドクタージョンことマック・レベナックのアルバム「ガンボ」の中に入った「BIG CHIEF」がモチーフ。ガンボを知ったのは、大瀧詠一と細野晴臣が対談したラジオ。二人がナイアガラムーン、トロピカル三部作を作っていたころ、「ニューオリンズ音楽の教科書」として彼らはガンボに出会ったそうです。大瀧氏曰く「細野さんがBIG CHIEFで大瀧はJunco Partner」。確かに、ハンドクラッピングルンバは下敷きにJunco Partner。ただ、大瀧氏の場合、下敷きはちりばめられていて、まんまではありません。その大瀧氏のハンドクラッピングルンバ、後に、細野氏がTin Panでカバーします。最後、徐々に「副は内鬼は外」という細野氏の曲に変化していくのがかっこいい。忌野清志郎ゲストのライブもかっこいい。コーラスの小坂忠もかっこいい。結局、みんなかっこいいのですが。

BIG CHIEFは元々 Professor Longhair/1965年のシングル。それをアルバム「ガンボ」でDr Johnが取り上げました。でもこの曲、ボーカルがDr Johnでオルガンはロニーバロン。ロニーバロンは「Dr Johnになるはずだった」男。彼が、Dr Johnのアイデアを断ったので、マック・レベナックがDr Johnを名乗るようになった。変な縁は続いて、そのロニーバロンのアルバムを細野氏がプロデュースしています。YMO始める寸前、どっぷりニューオリンズなアルバム。日本のミュージシャンがプロデュースして「ニューオリンズ以上にニューオリンズ」なアルバム。演奏も日本人ミュージシャンの東京録音、ニューオリンズでのアメリカミュージシャン録音、どちらも甲乙つけがたい傑作です。

- LOUISIANA FOOTBALL
 - BIG CHIEF 72
- ¥10,000 (本体価格)
¥11,000 (税込)

デリバリー予定 3月

QUEEN OF THE ROAD Jacket



WORKER の初期からだいぶ間が空きながらも作り続けている BOSS を参考にしたカバーオール。

オリジナルが犬なので、WORKERS は猫で、「Queen of the road (わざわざ商標も取得)」としました。

前回は、着丈 75 センチ程度の長めだったのを、今回は 69 センチ前後。「G ジャンよりは長い、クラシックなジャケットよりは短い」丈。この丈が、身長 170 少々の日本人にはバランスよく見えます。

デニムは 8 オンス。カバーオールは 10 オンスで作ることが多いところ、少しだけ薄手。昨今の、夏が早く来て長すぎる日本の気候に合わせて。細かいことを言うと、一口に「デニム」と言っても、織り目の飛び具合が「タテ糸がヨコ糸 2 本分飛んで 1 個もぐる」「にいちの綾（あや）」と、「ヨコ 3 本分飛んで 1 個もぐる」「さんいちの綾」があります。一般的にワークウェアに使われるのは「にいち」。糸の交差する点が多いので、摩擦力が強く生地は固め。ヨコ糸の白が見えづらく、全体的に濃いめの色に見えます。OW ではいわゆるジーンズの「さんいち」綾よりそっけなく見える。色落ちして初めて初めて「デニムらしさ」が目立ってきます。

ブラウンダックはもう少しだけ厚く 9 オンス。あえての反染、糸もムラではなくストレート。ダックはかえって、こんなぞつけない見た目のほうが「ダックらしく」感じるので選びました。インディゴヘリンボンは p4 で詳しく書きましたので、そちらをご覧ください。

Cotton 100%

- 8 oz Indigo Denim

- 9 oz Brown Duck

¥30,000 (本体価格)

¥33,000 (税込)

- 10oz Indigo Herringbone

¥35,000 (本体価格)

¥38,500 (税込)

デリバリー予定 3月

Open Collar Shirt



Ecru Linen

ザ夏のシャツ。オープンカラー。

型紙が開襟＝オープンカラーで着るのを前提に作られています。襟を見るとボタンダウンのような台襟が無い。襟の付け方も独特で、身頃に縫いこむ。後ろ中心に向かう途中、襟の中、見えない部分に切込みを入れて縫い代を反転させる。これが簡単そうで意外に難しい。

M サイズで身幅 60 センチ。かなりゆったり目。でも肩はそれほど落としていません。肩回りはすっきり見えるけれど、身頃は適度にゆったり。背面、サンプルはセンタータックにしてみましたが、量産はサイドタックに変更します。やはり、この形にはサイドのほうが合う。いまだに、やってみないとわからないことがあります。

素材、5.5 オンスリネン。過去に、もう少し薄いリネンでサンプルを作ってみたこともあるのですが、かえって体にまとわりついで暑苦しい。5.5 オンスの糸の太さ・生地の厚みだからこそ、プルプルと動くりリネンの風合いが一番感じられる。体から生地が離れて涼しい。特に強い防縮加工が入っているので通常の洗い + 影干しでは殆ど縮みません。

マドラスとフィッシュブロックプリントはインド製。どちらも 3 オンス程度でシャツとしては最も薄い。かつ、織り糸もプロードのように細くないので、織り目に隙間があり風が通る。ボタンはあえて樹脂で耐衝撃性のあるもの。洗濯しても割れずらい、でも貝のような光沢がある。夏場、ネットに入れずに洗って、干して。イージーケア重視。

Linen 100%

- Ecru Linen
- Black Linen

¥19,000 (本体価格)

¥20,900 (税込)

Cotton 100%

- Orange Madras
- Fish Block Print

¥15,000 (本体価格)

¥16,500 (税込)

デリバリー予定 4月

FWP Trousers



「Fatigue Trousers Without Cargo Pocket」で「FWP Trousers」。いかにも和製英語っぽいです。

元々、はるか昔にベーカーパンツをシャンブレーで作りました。そんなに売れなかったのですが、発売して数年後。電話で問い合わせがあり「昔、買ったシャンブレーベーカーがどうしてももう1本欲しい！涼しすぎる！！」

「確かに5オンスクラスのシャンブレーでズボン作ったら涼しいよな」と思いつつ、生地の強度が10オンス系よりは落ちる。だから、ベーカーのようなゆったりシルエットでないと生地が裂ける。

そんなことを考えながら、また別に作ったファティーグパンツ。そういえば、ファティーグも6オンスぐらいのポプリソーダなど…。このサイドポケットを無くして、普通の「ズボン」に変える。でも、ウェストのバックルは残して夏にベルト無しで穿けるパンツはどうだろう？それが、FWP Trousersです。「ファティーグ」とか「ベーカー」のように、元ネタがはっきりしないので不安でしたが、この暑い夏には最適。長年、販売を続けられる製品になりました。

素材、コットンリネンはBand Collar Shirtでも使ったもの。7.6オンス。ちらちらと見える、白いネップがまるでビンテージのリネン生地にそっくりで選びました。ブラックシャンブレーは私が好きな「コットンなのにウールトロみたいに見える」生地。5オンス、かつ織り目に隙間があり一番涼しい。ライトチノ・ポプリンが6オンスほど。チノは定番の10オンスよりぐっと薄く、ポプリンはファティーグパンツのあの厚み。

Cotton 65% / Linen 35%

- Indigo Cotton Linen
¥22,000 (本体価格)

Cotton 100%

- Black Chambray
¥17,000 (本体価格)

- 6 oz Light Chino

- OD Poplin
¥16,000 (本体価格)

デリバリー予定 4月

Running Cat T/WILD CATS



Grey



Ecru



Navy



D.Green



首回りをとにかく頑丈に。頭を通す時は伸びる、首元で戻る。着こんでも簡単に伸びない、2階式バインダー。このためだけに、ミシンにつける金具を特注で作りました。

裾・袖口は通称「天地」。最近は「シングル」などとも呼ばれていますが、シングルステッチのミシンではなくロックミシンのセッティングを変えて縫います。ゆるい目調子でかけたロック、開くと縦方向に糸がわたる。それが、点のように見えるので「シングル」と呼ばれているようです。アメリカ製Tシャツで昔はメジャーだった縫い方の再現。

今年は7オンスの天竺。この生地、去年フットボールで初めて使い、自分で着てみました。「いかにも古着のTシャツの、乾いた手触り。着心地は良く、簡単に形崩れしないしっかり感。かといって生地がぶ厚すぎて暑くも無い、ちょうどよい肉感」。Running Cat T、24SSがガッチガチの10オンス、25SSがコットンレーヨンで6オンスで柔らかめ。お手持ちの方はぜひ素材の違いを触り・着比べてみてください。

今年はプリントを追加。何をやろうかな?とTCB井上君と茶のみ話していると「そりゃもう、カレッジ系ですよ!」。カレッジ系の動物・・・そうだ、Wild Catsだ!と思いつき、文字部分はデザイン出来ました。が、イラストが無い。そこで、ついにAIの登場。Chat GPTに超課金して、うちの茶トラ猫、お茶君をベースにカレッジ風に。AIも使ってみるとわかりました。「もう少し口を閉じて」「怒った表情で」とか試行錯誤が必要。半日かけて満足なデザインができました。

Cotton 100%, 7 oz

• Running Cat T

¥9,000 (本体価格)

¥9,900 (税込)

• WILD CATS

¥10,000 (本体価格)

¥11,000 (税込)

デリバリー予定 4月

2 PLY Pocket, Regular Fit/Slim Fit

Fuji Green



Slim Fit

Slim Fit
細バインダーネックRegular Fit
ちょい太目バインダーネック

Regular Fit

White

Navy

Numa Blue

3PLY から 2PLY に変化した WORKERS の定番 T シャツ。

変えた理由は生地の厚みと密度。3PLY、美しい生地表面の代償に、生地密度が高すぎて現代の猛暑日にはつらい。そこで、2PLY にすることで 5% 程オンスを下げ、5.7oz 程。さらに、3PLY は 80 番 × 3 本撚り = 26 番相当で編むところ、2PLY は 40 番 × 2 本撚り = 20 番相当。糸は数字が下がるほど太い = 3PLY より 2PLY の方が太い糸。かつオンスも少し低い = 編みの密度が低い = 風通りが良く涼しいという事です。(同じ重さでもポプリンよりマドラスが涼しいのと同じ理屈) 「2PLY」は「2 本の糸を撚り合わせ」という意味。一本の糸は Z 撚り (左撚り)。それを S 撚り (右撚り) で 2 本まとめて 1 本の糸にしてから編み機にかける。これで「ねじれ・斜行」を少なくして綺麗な仕上がり。編み地、一本の糸で編む天竺 (T シャツ生地) は糸の撚り方向に斜めによる「ねじれ・斜行」が発生します。それを防ぐため 2-PLY-T は「糸自体の撚りとは逆方向に 2 本をより合わせる」つまり

• 1 本の糸の撚り方向 (左) vs 2 本の糸の撚り合わせ方向 (右) が互いのよりを打ち消しあい、斜行を抑える。人が着た時、生地がまっすぐ落ちる、「きれい」に見える秘訣はこの 2 PLY、2 本撚り合わせにあります。

ジャケットの中に着る事を考えた Slim。Regular はゆったりシルエットで風通りも良いので 1 枚で着て涼しい。着丈はどちらも M で 65 センチ程。今年は 6 ボタン BD の中に着るために Solid、ポケット無もラインナップ。

- 5.7 oz, Cotton 100%, 2PLY

- Pocket 有り

- Slim Fit (青タブ)

- Regular Fit (赤タブ)

¥ 8,500 (本体価格)

- Solid (ポケット無し)

- Slim Fit (青タブ)

- Regular Fit (赤タブ)

¥ 8,000 (本体価格)

デリバリー予定 4 月



Regular Fit

Slim Fit

2PLY Tシャツのシルエット比較。モデルは身長175センチ・体重62キロほど。WORKERSでは通常、シャツで15、TシャツでMサイズ、ジャケットは38もしくはMを着用しています。2PLY TはいずれのフィットもMサイズを着用。

Regularはいわゆる「普通のTシャツ」サイズ。どこも突っ張らない、適度にリラックス。Slimは一枚で着ればすっきりと見え、ジャケットのインナーに最適。首元がちらっと見える6ボタン系のボタンダウンと合わせるのもおすすめ。今年は、シャツに合わせやすいようポケットなしも作成予定です。たかが首元。でも、その「ちらっと」見える首がバインダーなのか?付け襟なのか?バインダーなら太いバインダーか、細いバインダーか。そんな、どうでも良いことが私のとては大事なのです。

Modified Short Sleeve BD



半袖ボタンダウン。

映画アポロ 13、アポロ 11 のドキュメンタリーをご覧ください。NASA 職員が着る半そでボタンダウンにギリッとネクタイを締めた壯観な眺め！白い半袖 BD にニットタイ。これぞ夏の正装。

洋書：HOLLYWOOD AND THE IVY LOOK の p 156-157。裾を出して、ラフにマドラス半そでボタンダウンを着たアメリカングラフィティから一枚。先のアポロ 13 を監督したロン・ハワードの若かりし日。半そで BD にコットンパンツ、ローファーの組み合わせ。私にとって強烈な「アメリカントラッド」「アイビースタイル」の印象。半袖だから当然ラフ、砕けた雰囲気だけど、襟がついて少しドレス風味。この微妙なミスマッチがコスプレとは違う、リアルさを感じます。

素材、オックスは 5 オンス。無地はタテ・コーマ糸（横で短纖維落とした糸）/ ヨコ・スープマ糸。5 オンス。ストライプはタテヨコ共にブランド糸は使わないので長綿。4.7 オンス。

インド糸はすべて 3 オンスほど。ブラックウォッチ、マドラスなのに柄がトラッド系。このミスマッチが私は好きなのです。ペイズリーのブロックプリントはいかにも半袖 BD ではなじみのある、リゾート感のある生地。ただいま、インドで量産反を製造中。ブロックなので、柄の送り部分が微妙に斜めってのもご愛敬。トライアングルパッチワーク、生地値が高い！！！でもあまりの可愛さにどうしても使いたくなってしましました。

Cotton 100%

- OX/Blue/White/Srtipe
 - India Block Print, Paisley
 - India Madras, Blackwatch
- ¥15,000 (本体価格)
¥16,500 (税込)

- Triangle Patchwork Madras
- ¥20,000 (本体価格)
¥22,000 (税込)

デリバリー予定 5 月

Modified Fit Polo/BIG FIT Polo

White



Navy



Numa Blue



Forest Green



仕様はワニではなくポロプレイヤーの1枚をモチーフに。前後の段差無し。裾始末はロック+ステッチで強度重視。「フィットしてすっきりして見えるものと、もっとゆったりして楽でさらに涼しさを感じるもの、2パターン欲しい」そこでシルエットを2種類に。

MODIFIED FITはMで身幅51/適度に体にフィットして丈もジャケットに収まるように。S/M/L/XL、4サイズ展開。BIG FITはL身幅60。M/L/XLの3サイズ展開。

ボディは8オンス鹿の子編み。オ nsは比較すると2PLY Tよりかなり重いですが、鹿の子独特の隙間というか、小さな穴が開いたような組織なので風が通る。だからポロシャツは涼しいと感じます。

ポロシャツは一見、「Tシャツに襟がついたようなものでしょう?」と思われるがちですが、縫製工程・生地・付属が全く違います。襟・袖口は横編み機での編み立て。肩・襟回りには伸び止めテープ。ボタンは高瀬貝ボタン。製品染めなので、染めてからボタン付け。この貝ボタンは通常の洗濯+天日干しであればまず割れませんが、製品染めの為温度を上げ、さらにタンブラー乾燥すると割れてしまうので後付け。タンブラー乾燥して縮みきらせてるので洗った後の縮みもほとんどありません。

ワッペン、今年はまた新たにWORKERSのWをポップにデザイン。これはChatGPTではなく、タテノ謹製です。

-8oz, Cotton 100%, Kanoko

- White / Navy

- Numa Blue / Forest Green

¥16,000 (本体価格)

¥17,600 (税込)

デリバリー予定 5月

Baker Pants/Baker Shorts

10296
Reversed
Sateen



OD Poplin



パターンは解体したデッドストックから作成

正式名称「TROUSERS, MEN'S, COTTON, SATEEN」通称「ベーカーパンツ」。

パターンは、オリジナルの MIL-T-838D (1958 年) を解体、トレース。裾幅 24 センチ。ワタリが広く股上も深い、ゆったりとしたシルエット。夏は風が通り、冬は中にレギンスをはいて窮屈にならない。

生地、バックサテンは、MIL-T-838D の個体と MIL-C-10296J (生地スペック) を参考に作った「ベーカーに使われる目の粗いバックサテン」。手触りはしなやか。初期は硫化染で現在はスレン染。初期の硫化染料が廃番。硫化染料の種類を変えるも、次は染色工程の「マーセライズド」(アルカリで表面を平らにする工程) ~ 硫化染を一貫で出来る工場が無くなる。「マーセライズド」~「染色」を別工場でやるのはコストと品質安定には現実的ではない。そこで、「スレン染」に変更。スレンならマーセ~染色の一貫工場もある。スレンの特徴は色落ちが硫化に比べて少ない。ただ、こすれた部分の「白化」はする。後ろの巻き縫いを見てわかる通り、メリハリが効いた派手な変化。硫化は全体が白っぽくなり、最後は、全体がほぼ似た色になりますが、スレンはこすれた部分、こすれない部分の差が激しくです。

バックサテンが 10 オンスほどに対し、ポプリンは 6.2 オンスほど。夏にジャングルファティーグを穿いて草刈して「この厚みのポプリでベーカー作れば真夏に最適では?」と形にしました。ただ、バックサテンと生地厚が違い、同じ縫製方法ではうまく縫えない。腰裏をチェーンからシングルステッチにしたり、微調整をしています。

Cotton 100%

Baker Pants

- 10296 Reversed Sateen

¥18,000 (本体価格)

- OD Poplin

¥17,000 (本体価格)

Baker Shorts

- 10296 Reversed Sateen

¥16,000 (本体価格)

- OD Poplin

¥15,000 (本体価格)

デリバリー予定 5 月